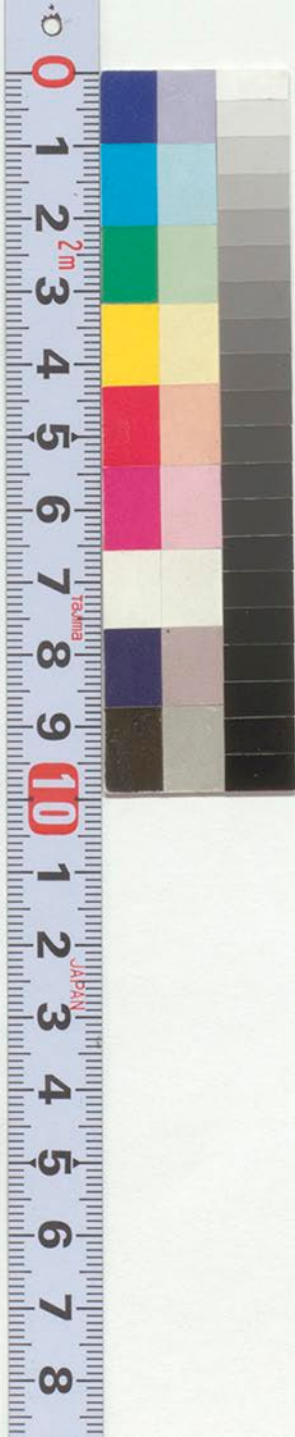


美國振小倉都逸全



天玉振のち書



今世よふまゝの廣くおろあふ人々を。
 まの衆も漢語とわける。をるをけみほごま
 める大人へいみしみのみやびをわざと好む。
 たるをいふとゆえやうづとめま那死す。
 ままのふもむも。廣くもみあきうえん。
 まもむもみ。めもむもむも。かきう。

の終るるを我世の人よむまゝあり。あや
 あり我いのめ日英玉あり。あや。い。ま。の
 我をを書あをよと。あや。肉に。飛るま
 へ。耳常の言の夢みたぐて。世の人
 少。思えるるを種と。花は佛等ほふ
 と。わのうに。を全。おと免の情結。あはほむ
 性。の。名。を。あ。る。と。う。き。あ。ひ。を。に。ほ。む

さあをどのまゝの三篇の末のまゝおなう。
鬼やもむとあのまゝもとて枝やういあん
武士
うげはあまあんまの申をうわいどまの大和
歌小倉百首は準いもあん背もあはに
んべ。冠の用をあはとや。かやもあみ。まが
やび。うらか。お年

明正庚午七月

速乃屋



和歌三神

人丸大明神

あまのつるぎ

あまのつるぎ

あまのつるぎ

あまのつるぎ

玉津嶋大明神

かげく

かげく

かぎ乃國

かぎ乃國

かぎ乃國

住吉大明神

あまのつるぎ

あまのつるぎ

あまのつるぎ

あまのつるぎ

意好

聖文



百人一章道化小倉都

天智天皇

小園のかり聴ふ

あつとあつとも

あらんかまへの捨え衆

持統天皇

なへあふけり皆

白妙の



あつとあつとも

茶屋女

柿本人麿

あつとあつとも

あつとあつとも

あつとあつとも

あつ

山部赤人

あつとあつとも

あつとあつとも



みぢあきとけ 晴麻よりも
あきとけの字がよやのけし

猿丸太夫

わさきさきの渡も橋きく仲良果て
あねのいあきとけあきさのの

中納言家持

ぬのあきをあらけきさきバ
みさき月より 霜のふ

安倍仲麿

赤いあき見るか 茶 橋
ふん字派山さとい人いり

喜撰法師

あきのあきさきさきさき
あきさきさきさきさきさき

小野小町

あきさきさきさきさきさき
さきさきさきさきさきさき

蟬 丸

あきさきさきさきさきさき
あきさきさきさきさきさき

参議 篁

あきさきさきさきさきさき
あきさきさきさきさきさき

僧正 遍昭

陽成院

みみの川でいりや

みけいごと

あどはりや

あまのこなるる

河原左大臣

志のふりちづり

あやなひあふ

あふりや

あふりや



光孝天皇

君のちあふりや

あふりや

あふりや

あふりや

中納言行平

あふりや

あふりや

あふりや



新代も波面か、まゑなるの
とてや小なる新田川

在原業平

岸よりなほ小舟のこゆらも
ゆきのうらやみちの谷なり

藤原敏行朝臣

ちるぞみづのたぐひのさへんと
とくしそ^はき^はふ^はふ^はふ^は

伊勢

身を清くし心も静かにありて
人々の心を安んずる事も有り

元良親王

今んと云てねしをよめよふにそ
りもやある明證ぐなく

素姓法師

よゝひあんにて返^{あへ}りやうを
人^{ひと}は知^しる事^{こと}をあるゆゑの

三條右大臣

秋の草木のあはれむとて
おもふくらやすの涙上戸

文屋康秀

海^{せう} いちくあるが所^{ところ}あるが
 所^{ところ} ひと所^{ところ}は河^{かわ}にそな

大江千里



管家

酒のさうかい

ゆうづり

ゆき

貞信公

峯

もみ

ぢみ

ゆ

る

政

小倉山といたの

り

中納言兼輔

飲どもはき

あね

こい

あき

源宗行

朝臣

あね

さし

人の

み



どきどきあやう松子のさだごと
おのゝあらざう月うはる

凡河内躬恒

物にまもるありのあはれ
あんのきこり月明の月

壬生忠岑

あめの月とるまどりの室
けきいあゝ雪あり積る

坂上是則

利やうあやうらゝん
あまきとあゝい葉もり

春道列樹

あうのどけきまんさん天窓
月もひらぬゝ雲がはる

紀友則

うてゝの夢たるまどり
枝もさうえる松ぼく

藤原奥風

花は咲くゆり松たれぞ
とらむの雪のころ

紀貫之

まの雪と思ふもあゝの雪の宜
雪のいづより月やどる

清原深養父

文屋朝康

風を吹くをきく

より人の心

よりきく

右近

あつた月

あつた月

それよおき

神と

参議算

小の藤原あつた

あつた月

あつた月

あつた月

平兼盛

あつた月

あつた月

あつた月

人が

み

十



人知まづあひ澤しもの何や角と
うきこゑにうたつていかにあはれ

壬生忠見

東のま川山あそぶあすしとくも
あつりやせぬぞくゑのん

清原元浦

ふたつ切をむくゝいののを
あつらぬむくゝいののをとね

権中納言敦忠

あまのあひをくぐりあつらぬ
あつらぬむくゝいののをとね

中納言朝忠

いろよ酒をむくゝいののを
あつらぬむくゝいののをとね

謙徳公

あつらぬむくゝいののを
あつらぬむくゝいののをとね

曾根好忠

あつらぬむくゝいののを
あつらぬむくゝいののをとね

惠慶法師

あつらぬむくゝいののを
あつらぬむくゝいののをとね

源重史

大中臣北宜朝臣

清土のうて火と

糸一のもしり

ひるいふても

よいのち

藤原義孝

藤原のつのも

あぐもがふと

かりふもかまふ

あまふと

藤原實方朝臣

えやいのふさね二年

のびさ

さくも名お

ようもあふ

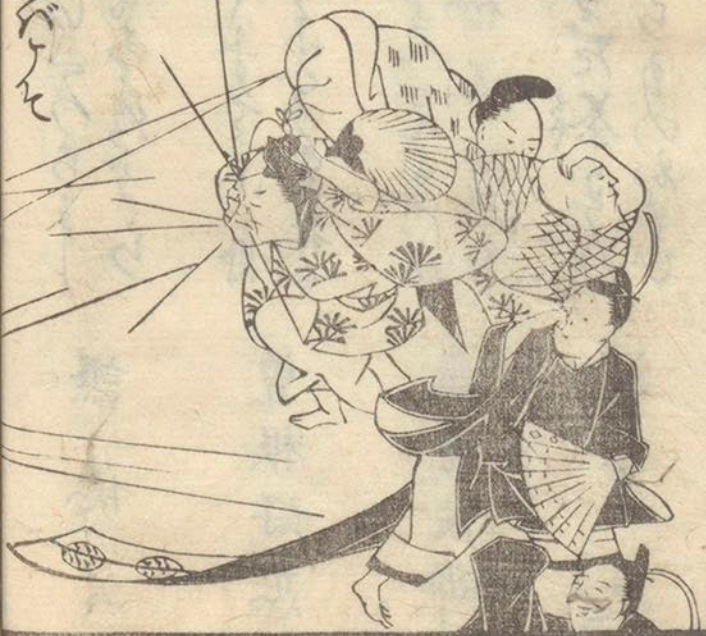
藤原道信朝臣

あけやあふと

さくもあふと

かりやうも

うらやふ



伊勢大浦

形どのもくらひあきも

八重と

いふ家ぐ親とくらぬ

よみり

清少納言

どうのそらぬい

よそのりもせうが

ぬのそらぬい

どうのそらぬ



左京大夫道雅

たふひとあき

人傳ちあき

いふくらあき

ふくら

中納言定頼

宮家の川ざり夜い

あけあき

せう細代が

いふくらあき



あまのやうなふらふらとわたり
日さしやひろく麻のたん

大僧正行尊

あまのやうなふらふらとわたり
日さしやひろく麻のたん

相模

あまのやうなふらふらとわたり
日さしやひろく麻のたん

周防内侍

あまのやうなふらふらとわたり
日さしやひろく麻のたん

三条院

あまのやうなふらふらとわたり
日さしやひろく麻のたん

能因法師

あまのやうなふらふらとわたり
日さしやひろく麻のたん

良暹法師

あまのやうなふらふらとわたり
日さしやひろく麻のたん

大納言經信

あまのやうなふらふらとわたり
日さしやひろく麻のたん

尊内親家紀伊

下戸のお酒と
前中納言匡房

弁山おかしき

たゞとやわら

のむぎよ

源俊頼朝臣

あんのろと

とろせおろ

とびひつれ

新りやせぬ

藤原基俊



ちとろ種もやわを

法性寺入道前關白太政大臣

雲井もろかや

あま川あま

うも



いふにせうもあはたまづいの
あまふもいふもあはたまづいの

崇徳院

いふにせうもあはたまづいの
あまふもいふもあはたまづいの

源無昌

いふにせうもあはたまづいの
あまふもいふもあはたまづいの

左京大夫顯胤

いふにせうもあはたまづいの
あまふもいふもあはたまづいの

待賢門院堀川

いふにせうもあはたまづいの
あまふもいふもあはたまづいの

後徳太尊允彦

いふにせうもあはたまづいの
あまふもいふもあはたまづいの

道因法師

いふにせうもあはたまづいの
あまふもいふもあはたまづいの

皇太后宮女藤成

いふにせうもあはたまづいの
あまふもいふもあはたまづいの

俊恵法師

西行法師

かみちや静しずかく

あまのをさか

なやいのをよ

うでさる

寂蓮法師

はるも

のこるは



かみちや静しずかく

あまのをさか

なやいのをよ

皇嘉門院別當

わのうら

とよあつと

あまのをさか

しるえん





式子内親王

あん乃たまの緒

たぐあひ

きんぬりやう

くろもき

こもき

殷富門院大浦

ゆきやうや

ゆきやう

ゆきやう

ゆきやう

ゆきやう



まろいものゝあつたを、
どすゝといふが病かきやう

後京極攝政太政大臣

仲のりゝのやうに強そむ
かゝくひもえなくあめど

二条院讚岐

いふは小船のろゝいをおろ
すまや明名のわいすまゝい

鑪倉右大臣

山形あまの世あんなくしと
あけくあまの世あんなくしと

參議雅經

何事ぞらむとて一日おきぞんぬ
 ぞとわくといふもくも飛の

前大僧正慈惠

庵より外の牙もあづきほ
 めをまろ庵のうへへ

入道前太政大臣

うしとて、上初も、今今日び、ああつそ
とて、え病いととを、ののり

藤原清浦朝臣

唐の何下^{ハカ}丹^ニ婦^メの霞^{カサ}あう^ハう^ハう^ハ
法^{ハフ}を^ヲ名^ナわ^カう^ハ結^{ムス}みの^ノか^ハい^ハ

入道前太政大臣

從三位家隆

なつ小川

あつてうさぎ

あつてうさぎ

とぶあつて

後鳥羽院

あつてあつて

あつてあつて

あつて



あつてあつて

あつてあつて

順徳院

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて

あつてあつて



311
216
114

東京短期大学図書

57128



